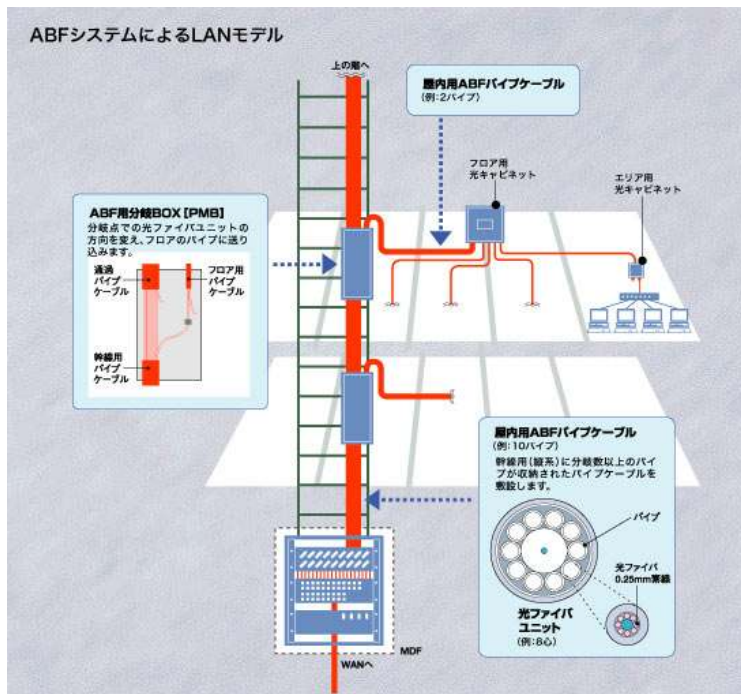


- ABFケーブリングシステム - (Air Blown Fiber)

● ABFケーブリングシステムとは・・・

あらかじめ敷設したパイプケーブル内のプラスチックパイプに、圧縮空気を用いて光ファイバユニットを圧送する工法です。一度パイプケーブルを敷設すれば必要が生じたとき光ファイバユニットを追加できますので、将来のシステム拡張や需要の変動に柔軟に対応することが可能です。



ABF ケーブル

ABFユニット圧送技術

キーテクノロジー

パイプの一端から圧縮空気を送り込むと、パイプの逆の開口端側に向かって、圧力降下と空気が発生します。この状態のパイプ内に傾伏の物体を置くと、空気圧力差による力および空気の粘性抵抗による力が全長にわたって発生し、物体にパイプ他端への推進力が与えられます。ABFシステムは、この現象を利用し、光ファイバユニットをプラスチックパイプ内に圧送します。光ファイバユニットは、効率よく圧送できるよう、光ファイバ心線を軽量かつ粘性抵抗を受けやすい発泡ポリエチレンで包む構造としています。

ABFユニット

ABFユニット用ポンプ

圧送ヘッド

パイプコネクタ

推進力

パイプ

圧縮空気

空気流

ABFシステム

Air Blown Fiber System

拡張性、経済性、信頼性、施工性に優れたシステムです！

- 配線の増設移設が容易、ネットワーク構成も思いのまま。
- 幹線から各階に敷設する際、光ファイバの岐接続が不要の為、
工事費が削減できます。
- 光ファイバをノンストレスで敷設可能、施工信頼性が向上します。

ABFシステムと従来のケーブルの比較

		ABFシステム		従来のケーブル敷設	
拡張性		配線の増設、移設が容易なため、思いのままのネットワーク構成が可能。	◎	新たに敷設するケーブルのスペースを確保しなければならない。	○
経済性	新設	パイプケーブルの敷設の後、ABFユニットを圧送しなければならないが、必要な芯数のみ圧送すればよい。	○	一度の敷設だけで済むが、将来の需要を見越しての敷設が必要。	○
	増設張替	新たに必要になった芯数のみ、ABFユニットを追加圧送すればよく、光ファイバの分岐接続も不要。	◎	新設時と同等のケーブル費用、工事費用が必要。	×
施工性	増設張替	空気圧送により既存のABFユニットの抜去、新規ABFユニットの圧送ができ、少人数で短時間での工事が可能。	◎	既存ケーブルの撤去、防火区画工事など面倒な作業が生じ、費用もかかる。	×
信頼性		空気圧送するため、ノンストレスで敷設できる。	◎	ケーブルを牽引して敷設するため、光ファイバに張力や側圧がかかる恐れがあり、注意を要する。	○
管理性		部門やテナントごとにパイプを伸ばせるため管理が楽なうえ、高いセキュリティが得られる。	◎	光ファイバは輻輳し、管理の手間やセキュリティ上のリスクが発生する。	×



掲載されている会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

このカタログに掲載されている仕様、サービス等は予告なく変更することがあります。

▼ お問い合わせ先

住友電工システムソリューション株式会社

[URL] <http://www.seiss.co.jp>

情報通信システム事業部

営業技術課(東京)

TEL: 03-5286-7667

営業技術課(大阪)

TEL: 06-4803-5934